

Natty Bumppo と Hector : 人間と自然の新しい関係

肴 倉 宏

Natty Bumppo and Hector: A New Relationship between Humans and Nature

Hiroshi Sakanakura

抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Natty Bumppo は、Uncas のメシヤ的な死と Hard-Heart の復活について語る伝道者である。彼は、また、聖餐式の執行者でもある。彼は、神との交わりを持つだけでなく人々や Hector を聖餐式に招く。Natty Bumppo の犬 Hector は、自然の世界を象徴的に示している。Hector を聖餐式に招く Natty Bumppo は、自然との交わりを深めている。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、ナッター・バンポー、ヘクター

(1999年8月28日 受理)

Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Natty Bumppo preaches about the messianic death of Uncas and the resurrection of Hard-Heart. He also observes the Eucharist in the wilderness. He not only hold communion with God but also invites people and Hector to the Eucharist. Natty Bumppo's dog, Hector, symbolizes the natural world. Natty Bumppo who invites Hector to the Eucharist holds communion with nature.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Natty Bumppo, Hector

(Received August 28, 1999)

James Fenimore Cooper は、*The Prairie* (1827) の Natty Bumppo を大草原地帯で活動している老罾師として描いている。Henry Nash Smith は、Cooper が Natty Bumppo を老罾師として描いた理由を次のように述べている。

Yet the trappers dominated the exploration of the trans-Mississippi region, and the successor of Boon and Leatherstocking in the role of typical Wild Western hero was certain to be a mountain man. Cooper had acknowledged this fact in *The Prairie* by transporting Leatherstocking beyond the Mississippi and trying halfheartedly to make him over into a trapper. But Leatherstocking did not really belong in the Far West — a region about which his creator knew next to nothing. Besides, the old hunter considered the vocation of a trapper somewhat beneath his dignity.⁽¹⁾

Henry Nash Smith は、1830年頃までには Mississippi 河の西の地域で活躍していたのは mountain man と呼ばれている罾師たちであると指摘している。そして彼は、*The Prairie* の舞台が Mississippi 河の西の地域なのでそこで活躍する人物として Natty Bumppo が罾師として描かれているのだという。彼は、罾師としての Natty Bumppo は時代の状況を写し出しているというのである。しかも、Smith によれば、Natty Bumppo は罾師の職業を自分の威厳を損ねるものと考えているという。

しかし、光と闇から構成されている舞台の中で Natty Bumppo を捉え直してみるとどうなるであろうか。Natty Bumppo を光と闇から構成された舞台の中で捉え直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品の舞台は、重要な意味をもってくるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかしこの作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでなく、それは、作品のテーマを支える重要な意味を与えられているのである。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味を持っていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true characters (14-15)⁽²⁾

Natty Bumppo は、小高い丘の上に立って燃えるように輝いている夕日を満身に浴びてい

る。この場面にやてきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を越えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15) に打たれて立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light . . . surrounds the trapper with a halo of light, and, in fact, almost sanctifies him.”⁽³⁾ と述べている。冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo は、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour — the calm beauty of the season— the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385) と描かれているように姿勢を正し大きな声で “Here” (385) と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的な存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第1章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組を作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられている。

The Prairie の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第1章後半から第6章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Siouxes 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40) と描かれている Siouxes 族は、Natty Bumppo に “the miscreants!” (37) や、“the thieves” (38) と言われている。彼らは、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜闇に紛れて獲物を求めて徘徊している Siouxes 族を “A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37) と述べている。Siouxes 族は、人間というより悪魔に似てい

るというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味が与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Siouxes 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめた上で、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を “he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.” (53) と描いている。残忍な目的を遂げるために犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り広げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深い関わりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表すものを信じるか、それとも闇の世界に留まるかという倫理的問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

Natty Bumppo が、光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼は、80歳をはるかに超えた “trapper” (22) として描かれている。Natty Bumppo は、彼を狩師とみなす Ishmael Bush に対して、“you are mistaken, friend, in calling me a hunter: I am nothing better than a trapper.” (22) と言う。彼は、*The Prairie* で特に畏師であることに固執している。畏師は、高齢になり体力の衰えた Natty Bumppo の生計を支える職業であるばかりでない。畏師は、象徴的な意味をも与えられているのである。Natty Bumppo と Paul Hover の会話に注目してみよう。若く強健な Paul は、Natty Bumppo が畏師であると知ると “Trapper! is he then a trapper! Give me your hand, father: our trades should bring us acquainted.” (31) と言って握手を求めてくる。彼に対して Natty Bumppo は、畏師について次のように語る。

There is little call for handicrafts in this religion. . . the art of taking the creature's of God, in traps and nets is one that needs more cunning than manhood; and yet am I brought to practise it in my age! (31)

Natty Bumppo は、神の被造物を捕らえるのには勇氣より知識が必要だという。彼は、年

を重ねてきてはじめて神の被造物を捕らえられるようになったという。こうして、Natty Bumppo は大草原で出会う人々に神について語る伝道者であることが暗示されているのである。

Natty Bumppo の役割は、第31章の裁判の場面でさらに示されている。この場面で Natty Bumppo は、Ishmael Bush の長男 Asa を殺した嫌疑をかけられ Ishmael Bush に裁かれようとしている。彼は、自分にかけている疑いを晴らすために見たことを話すのである。彼は、Asa の叔父 Abiram White が Asa を背後から鉄砲で撃ち殺すのを目撃したと話す。Natty Bumppo は、この事実を語る時前置きとして次のように話す。

I have a short story to tell, and he that believes it will believe the truth, and he that disbelieves it will only lead himself astray, and perhaps his neighbour too.
(352)

Natty Bumppo は、彼の語る物語を信じるものは真理を得るし、信じないものは真理に至る道からはずれるだけでなく他の人をも誤らせるというのである。Natty Bumppo は、真理にいたる道を語る伝道者なのである。Henry Nash Smith は、畏師としての Natty Bumppo は Mississippi 河の西の地域で活躍していた当時の畏師たちの姿を反映していると述べていた。しかし彼は、畏師としての Natty Bumppo が象徴的な意味を与えられた人物であることに気がついていない。Natty Bumppo は、神に関する真理を語る伝道者なのである。

伝道者としての Natty Bumppo が語る真理の一端は、*The Last of the Mohicans* に描かれていた Uncas のことに係わりがある。彼は、*The Prairie* の中で *The Last of the Mohicans* で体験したことをしばしば思い出して話をする。たとえば、彼は、木の上から Natty Bumppo たちを狙い撃ちした “that accursed Huron” (84) を撃ち殺したことや “a companion who never opened his mouth but to sing” (204) と言われている賛美歌教師の David Gamut がとてつなく構わず賛美歌を歌うので非常に困ったことなどを話す。しかし何よりも印象深いこととして Natty Bumppo が語るのは、*The Last of the Mohicans* の Uncas や Chingachgook のことである。たとえば、彼は “Ah's me! your Delawares were the red-skins of which America might boast; but few and scattered is now!” (57) とか “The people I lov'd most, are scattered as the sands of the dry-beds fly before the Fall hurricanes” (76) あるいは “the greatest, the bravest, and the wisest nation of the red-skins that the Wahcondah has ever breathed upon” (277) と話す。Uncas や Chingachgook は、Natty Bumppo にとっていつまでも忘れがたい存在なのである。その理由は、Natty Bumppo が彼らと共に数々の困難を切り抜けてきたからというだけではない。苦労を共にしたという以上に忘れがたいのは、Natty Bumppo が Uncas や Chingachgook を象徴的な意味を与えられた特別の存在と考えているからなのである。*The Last of the Mohicans* の Uncas は、メシヤとして描かれている。⁽⁴⁾ Uncas のメシヤ性は、彼の死を通して示されている。Uncas の死に至る過程は、聖書に描かれたイエス・キリストの死に至る過程と重ね合わせて描かれている。メシヤ Uncas の死は、悪の呪縛か

ら人間を解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味を与えられているのである。⁽⁵⁾ Uncasの父 Chingachgookは、悪を根絶できる全知・全能の存在として描かれている。⁽⁶⁾ しかも、彼は、悪を用いて善を成すという救済計画を Uncasの死を通して実現しているのである。Natty Bumppoは、*The Last of the Mohicans*の Uncasをメシヤとして認識していただけてだけでなく、Uncasの死を通して彼の父 Chingachgookと関係を深め救いを得たのである。⁽⁷⁾ この救いの体験をした Natty Bumppoは、Chingachgookと Uncasの係わりに描かれているように愛する独り子を犠牲にしてまで人間を救おうとする神の愛を大草原で会った人々に語ろうとするのである。

Natty Bumppoが伝道する真理は、Uncasに係わりがあるだけではない。彼が語る真理のもう一端は、*The Prairie*の Hard-Heart のことにも係わりがある。Natty Bumppoは、Siouxes族に捕らえられ死の危険に直面している Hard-Heart について次のように言う。

There is something in these Loup, which opens my inmost heart to them. They seem to have the courage, ay, and the honesty, too, of the Delawares of the Hills. And this lad, — it is wonderful, it is very wonderful— but the age, and the eye, and the limbs are as if they might have been brothers! Tell me, Pawnee, have you ever, in your traditions heard of a Mighty People, who once lived on the shores of the Salt Lake, hard by the rising sun. (277)

Natty Bumppoは、Hard-Heartと Uncasの年齢や表情それに格好がそっくりでまるで兄弟なのではないかと思うのである。そして彼は、“some of his blood might be in your veins.” (278)と Hard-Heartに言うのである。*The Last of the Mohicans*の Uncasは、メシヤとして描かれていた。Uncasと似ていると言われている *The Prairie*の Hard-Heartもまたメシヤとして描かれている。⁽⁸⁾ 彼のメシヤ性は、第23章の大草原の火事の場面を通して描かれている。Hard-Heartは、野牛の皮に隠れて死を免れるのである。彼は、復活のメシヤなのである。復活のメシヤ Hard-Heartは、同時に最後の審判のときに宗教的・倫理的な善・悪を裁く審判者としても描かれている。彼は、死からの復活によって開始された終末の完成者なのだ。復活者で同時に終末の完成者である Hard-Heart に対する Natty Bumppoの姿勢は、第24章の河を渡る場面を通して示されている。Hard-Heartは、Duncan Uncas Middletonの妻 Inezや Paul Hoverの恋人 Ellen Wadeを野牛の皮で作った小舟に乗せて対岸まで運ぶ。Inezと Ellenを渡し終えると、Hard-Heartは Natty Bumppoと Obed Battiusを小舟に乗せるために戻ってくる。河を渡り戻ってくる Hard-Heartを見て Natty Bumppoは、Obedに次のように話す。

Now, friend Doctor. . . do I know there is faith in yonder red-skin. He is a good-looking, ay, and an honest looking youth, but the winds of heaven are not more deceitful than these savages when the devil has fairly beset them. Had the Pawnee been a Teton, or one of them heartless Mingos that used to be prowling through the woods of York, a time back, that is, some sixty years agone, we should have seen his back and not his face turned towards us. My Heart had its

misgivings when I saw the lad choose the better horse, for it would be as easy to leave us, with that beast, as it would for a nimble pigeon to part company from a flock of noisy and heavy winged crows. But you see, the truth is in the boy, and make a red-skin once your friend he is yours so long as you deal honestly by him. (262)

Natty Bumppo は、Hard-Heart を信頼できる若者だという。しかも彼は、Hard-Heart を一度信頼すればいつまでも仕えてくれる友になるという。彼は、メシヤ Hard-Heart を全面的に信じているのである。復活者にして終末の完成者である Hard-Heart を信じる Natty Bumppo は、死からでさえ生を造り出す神の計り知れないほどの豊かな創造力と終末の接近を大草原で会った人々に語ろうとするのである。

Natty Bumppo は、メシヤ Uncas や Hard-Heart について語る伝道者として描かれているだけでない。彼は、同時に、聖餐式の司式者としても描かれている。物語の第9章に描かれている野牛の肉を食べる場面に注意を払ってみることにする。Natty Bumppo は、この場で “a savoury bison’s hump” (96) の “The choice morsel” (96) を “the adjoining and less worthy parts of the beast” (96) からきり分けて Paul Hover に食べさせている。野牛の肉を食べることは、滋養豊かな肉を食べることで肉体的に強められることを意味しているだけではない。それは、象徴的な意味も与えられている。野牛の肉を食べることは、野牛の皮の背後に隠れて死を克服し復活を果たしたメシヤ Hard-Heart を食べることを象徴的に表している。しかし、それは、メシヤ Hard-Heart を象徴的に食べることだけにとどまらない。野牛の肉を食べることは、Hard-Heart と兄弟のように思われていた Uncas とも深く関わりがある。野牛の肉を食べることは、愛する独り子を犠牲にしてまで人間を救おうとする神の愛を思い起こし、死からでさえ生を造り出す神の創造力に感謝し終末の完成を先取りして味わうことなのである。第9章に描かれている野牛の肉を食べる場面は、キリスト教の聖餐式を連想させる宗教的な儀式を描いた場面なのである。⁽⁹⁾ Natty Bumppo は、宗教的な儀式を大草原の真ただ中で執り行うのである。こうして、Natty Bumppo は、神との交わりを深めるのである。

聖餐式の執行者として描かれている Natty Bumppo は、神との交わりを深めるだけでなく大草原で会った人々をも聖餐式に招くのである。彼が野牛の肉を切り分けながら Paul Hover に食べさせていると、そこに Obed Battius がやって来る。Natty Bumppo は、Obed に次のように言って招く。

Come on, friend. . . Come on, I say: if hunger be your guide it has led you to a fitting place. Here is meat, and this youth can give you corn, parch’d till it be whiter than the upland snow; come on, without fear. We are not ravenous beasts, eating of each other, but Christian men, receiving thankfully that which the Lord hath seen fit to give. (98)

Natty Bumppo は、神の与えた肉を感謝しながら分かち合うものだから恐れずに仲間に加

わるように Obed にいうのである。彼は、Obed に加えて Duncan Uncas Middleton も聖餐式に招いている。Natty Bumppo は、象徴的な意味を与えられた肉を食べる行為を通して神との交わりを持つだけでなく人々との交わりを持つとするのである。

Natty Bumppo は、聖餐式に大草原で会った人々を招くだけでない。彼は、彼と共に年を重ねてきた愛犬の Hector も聖餐式に招いている。Hector は、“a tall, gaunt, toothless hound” (16) と描かれている。彼は、死期を間近にした老犬なのである。Natty Bumppo は、Hector にも肉を分け与えている。再度、第9章の野牛の肉を食べる場面に注意を払って見る。野牛の肉を食べている Paul は “If I had but a cup of metheglin. . . I should swear this was the strongest meal that was ever placed before the mouth of man!” (97) という。Paul のこの言葉を聞いた Natty Bumppo は、彼に次の様にいう。

Ay, ay, well you may call it strong! . . . strong it is and strong it makes him who eats it! Here, Hector. . . you have need of strength, my friend, in your old days as well as your master. Now, lad, there is a dog that has eaten and slept wiser and better, ay, and that of richer food, than any king of them all! And why? Because he has used and not abused the gifts of his Maker. He was made a hound, and like a hound has he feasted. Them did he create men; but they have eaten like famished wolves! A good and prudent dog has Hector proved, and never have I found one of his breed false in nose or friendship. Do you know the difference between the cookery of the wilderness and that which is found in the settlements? No; I see plainly you don't, by your appetite; then I will tell you. The one follows man, the other natur'. One thinks he can add to the gifts of the Creator, while the other is humble enough to enjoy them; therein lies the secrets. (97)

Natty Bumppo は、自分も Hector も年を重ねてきたので象徴的な意味を与えられた肉を食べることで肉体的にも霊的にも強められる必要があるという。Natty Bumppo が Hector を聖餐式に招いているのは、Hector に対する Natty Bumppo の愛情からだけでない。Natty Bumppo と Hector の関係は、飼い主と飼い犬の親密な関係を描いているだけでなく象徴的な意味も与えられている。Hector は、人間を除いた神の被造物全体を象徴的に示す代表なのである。このような意味を与えられている Hector に対する Natty Bumppo の姿勢は、動物や植物を含む自然に対する Natty Bumppo の姿勢を示している。Hector を可愛がる Natty Bumppo は、自然を愛しているのである。Natty Bumppo が Hector を聖餐式に招いていることは、彼が人間だけでなく自然との交わりを積極的に持つようとしていることを物語っているのである。

聖餐式に Hector を招くことは、Natty Bumppo が自然との交わりと持つことを意味しているだけでない。それは、Natty Bumppo にとって正義を実践することでもある。第18章の Natty Bumppo と Hard-Heart の会話に注目してみる。Hard-Heart は、フランスの Napoleon 皇帝とアメリカの Jefferson 大統領の間で結ばれた Louisiana Purchase のことに触れて Natty Bumppo に次のように言う。

The runners from the people on the Big-river tell us, that your nation have traded with the Tawney-faces who lives beyond the salt lake, and that the Prairies are now the hunting grounds of the Big-knives. (187)

Hard-Heart は、大草原がアメリカの白人たちのものになったという。彼は、さらに、Louisiana Purchase のことに触れて Natty Bumppo に次のように問いかける。

And where were the chiefs of the Pawnee Loups, when this bargain was made! ... Is a nation to be sold like the skin of a beaver! (188)

Hard-Heart は、白人たちが先住民族としての Pawnee 族の生きる権利を無視したと非難している。その上、彼は、Pawnee 族をビーバーの皮のごとく売り買いできる商品のよう扱い人間としての尊厳を踏みにじったという。Hard-Heart のこの非難に対して Natty Bumppo は、次のように答える。

Right enough, right enough; and where were truth and honesty also. But might is right according to the fashion of the 'arth and what the strong choose to do, the weak must call justice. If the Law of the Wahcondah was as much hearkened to, Pawnee, as the laws of the Long Knives, your right to the Prairies would be as good as that of the greatest chief in the settlements, to the house which covers his head. (188)

Natty Bumppo は、人間の世界では権力が正義だけれども、それと次元の違う神の正義によれば Pawnee 族の権利もアメリカの大統領の権利も同じだという。彼は、Pawnee 族も白人も神の被造物である故に同じ権利を与えられているという。彼は、権力が正義の基礎なのでなく神の前での平等が正義の源であると主張する。Natty Bumppo が Hector を聖餐式に招いていることは、神の前での平等に基づいた正義を人間の世界に限定するのでなく自然界にまで拡大することなのである。Natty Bumppo も Hector も神の被造物として平等の権利を与えられているのである。Hector を聖餐式に招く Natty Bumppo は、人間も神の被造物の一つに過ぎないことを自覚しているのである。こうして、Natty Bumppo は、人間を中心に据えた自然に対する姿勢を克服しようとするのである。

Natty Bumppo が聖餐式に Hector を招くことは、神の前での平等に基づいた正義を行うことだけではない。それは、Natty Bumppo にとって自然に対する責務を果たすことでもある。Natty Bumppo と Duncan Uncas Middleton の話に耳を傾けてみる。Middleton は、Natty Bumppo にまつわる事柄は何一つ忘れていないという。そして彼は、Natty Bumppo の愛犬 Hector の血を引く子犬を連れて大草原に来ているという。彼は、自分の連れてくる犬と Hector のことを次のように話す。

No, no we have forgotten nothing that was his; I have at this moment a dog brushing a deer, not far from this, who is come of a hound, that very scout sent as a present after his friends, and which was of the stock he always used himself: a truer breed in nose and foot, is not to be found in the wide Union. (115)

Middleton は、優秀な犬 Hector の血を引く子犬を連れてきているという。Middleton のこの

言葉を聞いた Natty Bumppo は、自分の感情を抑えきれなくなり “Hector! . . . do ye hear that, Pup. Your kin and blood, are on the Prairies!” (115) と大喜びする。Hector は、物語の最終章に近い第33章に至るまで Middleton の連れてきた子犬と狩りに励んだり戯れはしゃいだりして自分の晩年を楽しむのである。しかし物語の第33章は、Natty Bumppo と Middleton の別れの場面である。Middleton は、Ishmael Bush 一家に誘拐されとらわれていた妻の Inez を開放し連れてきた子犬とともに Louisiana に戻ろうとする。Natty Bumppo は、最晩年を血を分けた子犬と楽しんできた Hector がひとりで死を迎えなければならぬ孤独を察知して Middleton をお願いをする。それは、Hector に関するものである。Natty Bumppo は、Middleton に次のように頼む。

Captain. . . I know that when a poor man talks of credit, he deals in a delicate word, according to the fashions of the world, and when an old man talks of life, he speaks of that which he may never see. Nevertheless, there is one thing I will say, and that is not so much on my own behalf, as on that of another person. Here is Hector, a good and faithful pup, that has long outlived the time of a dog, and like his master he looks more to comfort now than to any deeds in running. But the creatur' has his feelings as well as a Christian. He has consorted latterly with his kinsman, there, in such a sort, as to find great pleasure in his company, and, I will acknowledge that it touches my feeling a little to part the pair so soon. If you will set a value on your hound, I will endeavor to send it to you in the spring, more especially should them same traps come safe to hand, or if you dislike parting with the animals, altogether, I will just ask you for his loan through the winter. I think I can see my pup will not last beyond that time, for I have judgement in these matters, since many is the friend, both hound and red-skin, that I have seen depart in my day, though the Lord has not yet seen fit to order his angels to sound forth my name. (373-374)

Natty Bumppo は、死を目前にした Hector の最晩年が楽しいものであればそれだけ一層小犬との別れが辛かろうと感じ取るのだ。彼は、人間と同じ言葉を話さないとしても喜怒哀楽を感じ取る能力を持つ Hector が耐えなければならぬ孤独感を読み取り、孤独からくる苦痛を軽減し豊かに天寿を全うできるように配慮するのである。Natty Bumppo の願いを聞いた Middleton は、Natty Bumppo の Hector に寄せる思いやりの深さに感動して “take him, take him. Take all, or any thing!” (374) と言って子犬を渡す。Natty Bumppo の暖かい配慮によって Hector は、死ぬまで孤独を味わわずに過ごすのである。Natty Bumppo が聖餐式に Hector を招くことは、人間が自然に対して暖かい配慮を示す責任を負っている存在であることを自覚することなのである。

Natty Bumppo は、愛犬の Hector とともに老いていく。Hector は、“a tall, gaunt, toothless hound” (16) と描かれていた。Natty Bumppo は、80才をはるかに超える老農師である。彼等は、それぞれの生の終わりに近づいているのである。しかし、彼等の年齢

は、それぞれの生の終局を表すだけでない。それは、象徴的な意味も与えられている。Natty Bumppo は、メシヤの死と復活そして終末の完成について語ってきた。そのことを考え併せてみると彼等の高齡は、メシヤの死と復活によって開始された終末がいよいよ完成のときに近づいていることを象徴的に示しているのである。人間も自然も同じように終末に向かって歩みを進めているのである。Natty Bumppo と Ishmael Bush の会話に注目してみる。Ishmael Bush は、Natty Bumppo と同じように年齢を重ねてきた Hector を指しながら Natty Bumppo に “Your hound is old, stranger, and a rap on the head would prove a mercy to the beast.” (75) と言う。彼は、無慈悲にも Hector を撃ち殺すほうが彼のためだという。Ishmael の “the brutal advice” (76) を気に留めないようにしながら Natty Bumppo は、次のように言う。

The dog is like his master. . . and will number his days when his work amongst the game is over, and not before. To my eye, things seem ordered to meet each other, in this creation. (76)

Natty Bumppo は、被造世界においてはすべてのものが終末に向けて秩序づけられているという。Natty Bumppo と Hector は、象徴的な意味を与えられた野牛の肉を分かち合って食べてきた。彼等は、終末の完成を先取りして味わっている。彼らは、終末の希望に支えられて生きているのである。Natty Bumppo と Hector の死は、人間も自然も共に終末の希望の中でそれぞれに与えられた生を全うしていることを示しているのである。

Joel Porte は、*The Prairie* の Natty Bumppo と Hector のことについて述べている。Cooper の *The Last of the Mohicans* と *The Prairie* を広い意味で Homer の *Illiad* と *Odyssey* に比べられる叙事詩的な作品と見る Porte は、次のように言う。

Besides his being larger than life and presumably having some special connection with the divine, Natty is the epic hero par excellence in other ways. Like Odysseus, he is widely traveled and knows the customs of many peoples. . . . As a final touch, to parallel Odysseus' faithful dog Argos, Natty has his Hector (who, like the Homeric pet, is discreet enough to predecease his master).⁽¹⁰⁾

Joel Porte によれば、Natty Bumppo が Hector を連れていることは、Natty Bumppo が Odysseus のような叙事詩の主人公であることを示しているということである。しかし、Natty Bumppo は、神の前での平等に基づいた正義を認識し人間に課せられている自然に対する愛を自覚して実践するキリスト者の姿を描いていると解釈するべきであろう。Natty Bumppo と Hector は、キリスト教の正義と愛と終末の希望の中で人間と自然が共生していることを示しているのである。

伝道者にして聖餐式の執行者である Natty Bumppo の自然に対する姿勢は、Ishmael Bush 一家の自然に対する姿勢と対照されている。Kentucky 出身の Ishmael Bush 一家は、大草原にやってくる。そして彼等は、Natty Bumppo からキャンプにふさわしい場所を聞きだすと準備のためあたりに生えている木を切り倒し始める。Cooper は、その様子を次のように描写している。

At length the eldest of the sons stepped heavily forward, and, without any apparent effort, he buried his axe to the eye in the soft body of a cotton-wood tree. He stood, a moment, regarding the effect of the blow, with that sort of contempt with which a giant might be supposed to contemplate the puny resistance of a dwarf, and then flourishing the implement above his head, with the grace and dexterity with which a master of the art of offense would wield his nobler though less useful weapon, he quickly severed the trunk of the tree, bringing its tall top crashing to the earth, in submission to his prowess. His companions regarded the operation with indolent curiosity, until they saw the prostrate trunk stretch's on the ground, when, as if a signal for a general attack had been given, they advanced in a body to the work, and in a space of time, and with a neatness of execution that would have astonished an ignorant spectator, they stripped a small but suitable spot of its burthen of forest, as effectually, and almost as promptly, as if a whirlwind had passed along the place. (18-19)

Ishmael Bush 一家は、木を軽蔑の目で見てあっという間に人間の力に服従させてしまうのである。彼等は、自然を克服されるべき対象とみなしている。Ishmael Bush 一家の一員である Abiram White は、“The arth was made for our comfort; and for that matter, so ar' its creatur's.” (22) と言う。大地とそこにいる全ての生き物は、人間のために存在していると Abiram White は言う。彼等は、自然を人間の幸福を増進するための手段としてみているのだ。しかも彼等は、インディアンが自然を利用する権利をもっていることを認めようとしな。Natty Bumppo と Ishmael Bush の対話に耳を傾けてみる。Natty Bumppo は、“The Teton and the Pawnee and the Konza, and men of a dozen other tribes claim to own these naked fields.” (78) と言ってインディアンの自然を所有する権利を主張する。それを聞くと Ishmael Bush は、逆上して次のように言い返す。

Natur gives them the lie, in their teeth. The air, the water and the ground are free gifts to man, and no one has the power to portion them out in parcels. Man must drink, and breathe and walk, and therefore each has a right to his share of 'arth. Why do not the Surveyors of the States, set their compasses and run their lines over our heads, as well as beneath our feet? Why do they not, cover their shining sheep skins with big words, giving to this land-holder, or perhaps he should be called air-holder, so many rods of heaven, with the use of such a star for a boundary mark and such a cloud to turn a mill. (78)

Ishmael Bush は、自然は人間の共有財産だというけれども、彼はインディアンの権利を認めようとしな。彼の主張は、自分の所有欲を満たすための方便に過ぎないのである。実際、彼は、土地は人間の共有財産だと言って他人の所有地に居座り彼を追い立てようとした保安官を射殺した前歴があるのだ。Ishmael Bush は、神が自然の所有者であり被造物は互いに平等の権利を与えられているという自覚を持たない。彼は、人間が自然の所有

者でそれをどのようにしようと勝手だと考えている。Ishmael Bush 一家の自然に対する態度は、木を切り倒すことにみられるように破壊的で自然の利用の仕方は極めて自己中心的なのである。

Natty Bumppo の自然に対する姿勢は、Obed Battius の自然に対する姿勢とも対照されている。彼は、“a graduate of two universities” (123) で “M.D.” (67) の学位をもち “fellow of several cis-atlantic learned societies” (67) と述べられている博物学者なのである。彼は、Natty Bumppo の執り行う聖餐式に招かれているけれども野牛の肉を食べることに込められている象徴性を理解できない。実際、Obed は、肉を食べながら次のように言う。

I should be ashamed of my profession. . . I ought to be ashamed of my profession were there beast, or bird, on the continent of America that I could not tell by some one of the many evidences which science has enlisted in her cause. (99)

Obed Battius は、博物学の知識を用いて食べている動物の種類を同定できるという。肉を食べることは、彼にとって博物学の知識をひけらかすことに過ぎないのである。彼は、自然を分類され体系づけられるべき対象であると見ている。Obed の自然に対する態度は、彼と Natty Bumppo の対話を通してさらに示されている。Natty Bumppo は、Ishmael Bush の幌馬車に “something dark and hidden” (105) なものがあるという。Obed は、幌馬車に隠されているのは博物学に未だ分類されていない珍しい動物かもしれないと主張する。Natty Bumppo は、もし動物なら Hector が識別して教えるはずだという。Hector の直感能力を高く評価するのを聞くと、Obed はいきり立って次のように Natty Bumppo に言う。

Do you pretend to oppose a dog to a man! Brutality to learning! Instinct to reason! . . . In what manner, pray, can a hound distinguish the habits, species, or even the genus of an animal, like reasoning, learned, scientific, triumphant man! (105)

Obed は、理性を与えられている人間が動物よりはるかに優れているという。彼は、人間と動物が同列の被造物とみなされることに我慢ならないのである。人間の理性を絶対視する Obed は、Natty Bumppo に次のように豪語する。

Man may be degraded to the very margin of the line which separates him from the brute, by ignorance; or he may be elevated to a communion with the Great Master Spirit of All by knowledge — nay, I know not, if time and opportunity were given him, but he might become the master of all learning, and consequently equal to the great moving principle. (180)

Obed は、無知は人間を動物に近づけるが知識は人間を神にするという。合理主義者 Obed Battius の自然に対する態度は、人間に比べ自然界を一段と低いものと見る支配者としての態度である。

Natty Bumppo の自然に対する姿勢は、Paul Hover の自然に対する姿勢とも対比され

ている。Natty Bumppo の執り行う聖餐式に招かれている Paul は、自分の食欲を満たすことだけを考へて野牛の肉を食べている。彼は、明らかに Hector と肉を分かち合へて食べている Natty Bumppo と対照されている。Paul は、野牛の肉を食べることに込められている象徴性を理解していない。彼は、Obed Battius がやってくるのを見ると野牛の肉を独り占めしようとして腹に詰め込む。実際、Cooper は、Paul の様子を次のように描写している。

the bee-hunter, instead of suspending his operations, rather increased his efforts, in a manner which would seem to imply that he doubted whether the hump would suffice for the proper entertainment of all who were now likely to partake of the delicious morsel. (98)

Paul は、食欲に食べている。さらに、彼は、Natty Bumppo に “I tell you . . . that, every day while we are in this place, and they are likely to be many, I will shoot a buffaloe and you shall cook his hump!” (97) と提案する。彼は、毎日、一頭ずつ食べようというのだ。Paul に対して Natty Bumppo は、次のように答へる。

I cannot say that, I cannot say that. The beast is good, take him in what part you will, and it was to be food for man that he was fashioned; but I cannot say that I will be a witness and a helper to the waste of killing one daily. (97)

Natty Bumppo は、一日一頭ずつ殺して食べるという浪費には手を貸せないという。Natty Bumppo のこの言葉を聞くと、Paul は “The devil a bit of waste shall there be, old man.” (97) と言い返す。彼は、野牛がたくさんいるのだから少々無駄をしても構わないと考へるのだ。Paul の自然に対する姿勢は、浪費的なのである。

登場人物の中で Duncan Uncas Middleton だけが、伝道者にして聖餐式の執行者である Natty Bumppo の自然に対する姿勢を理解している。彼は、*The Last of the Mohicans* に登場した Duncan Heyward の孫なのである。Duncan Heyward は、合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰の持ち主として描かれていた。⁽¹¹⁾しかし、Duncan の孫である Middleton は、祖父の合理主義的・博愛主義的キリスト教の枠組みを脱却した信仰をもっている。彼は、Uncas をメシヤとする信仰に支えられている。そのことは、彼の名前に Uncas の名前がつけられていることに示されている。Uncas をメシヤとする信仰を持つ彼は、野牛の肉を食べることに込められている象徴性を理解している。実際、Middleton は、野牛の肉を食べるように勧められると次の様にいう。

I will however gladly profit by your invitation; for I have fasted since the rising of yesterday's sun, and I know too well the merits of a bison's hump, to reject the food. (109)

Middleton は、野牛の肉を食べることの価値を知っているのである。彼は、喜んで Natty Bumppo の執り行う聖餐式に加わるのである。そうすることで彼は、愛する独り子を犠牲にしてまで人間を救おうとする神の愛を思い起こし、死からでさえ生を造り出す神の創造力に感謝し終末の完成を先取りして味わうのである。聖餐式に加わることを理解し

ている Middleton は、Hector に対して思いやりを示す。すでに論じたように、Middleton は、Natty Bumppo の Hector に寄せる思いやりの深さに感動して “take him, take him. .. take all, or any thing!” (374) と言って子犬を渡している。彼は、Natty Bumppo と同様に Hector が孤独感を感じないで天寿を全うできるよう配慮するのである。彼は、キリスト者として自然に暖かい配慮を示す姿勢を持っているのである。Middleton は、Natty Bumppo と同じ自然観を持っているのである。

Natty Bumppo は、メシヤとして描かれた Uncas と Hard-Heart について語る伝道者であるだけでなく、聖餐式の司式者でもある。彼は、大草原で会った人々や彼の愛犬 Hector を聖餐式に招いている。彼は、神との交わりを深め人々や自然との交流をも深めている。Cooper が Natty Bumppo を描いたのは、人間と自然の平和な共存関係を構築するにはイエス・キリストの死と復活を信じる信仰が不可欠であると言いたかったからであろう。

注

- (1) Henry Nash Smith *Virgin Land: The American West as Symbol and Myth* (New York: Vintage Books, 1950) 89
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお () ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「時間の中心 Uncas—クーパーの描いたメシヤ像」大阪女学院短期大学紀要19号 (1988) 87-103
- (5) 拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要24・25号 (1995) 77-87
- (6) 拙論「Chingachgook と Magua—クーパーの神義論」大阪女学院短期大学紀要27号 (1997) 53-62
- (7) 拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要24・25号 (1995) 109-120
- (8) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要28号 (1998) 115-127
- (9) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要28号 (1998) 115-127
- (10) Joel Porte *The Romance in America: Studies in Cooper, Poe, Hawthorne, Melville, and James* (Middletown: Wesleyan University Press, 1969) 43 Natty Bumppo を Odysseus というのは、Joel Porte だけではない。D. H. Lawrence は、*Studies in Classic American Literature* (London: Heinemann, 1964) 47 で “They [the Leatherstocking books] form a sort of American Odyssey, with Natty Bumppo for Oddysseus.” と述べているし、David Brion Davis は、“The Deerslayer, A Democratic Knight of the Wilderness” in *Leatherstocking and the Critics*, ed. by Warren S. Walker (Chicago: Scott, Foresman and Company, 1965) 84 で Natty Bumppo を Odysseus と指摘している。Key Seymour House は、*Cooper's Americans* (Ohio State University Press, 1965) 301 で Hector と Argos の類似性を指摘している。しかし、彼等は Joel Porte のように Natty Bumppo と Hector のことにまで言及していない。
- (11) 拙論「Duncan Heyward の挫折」大阪女学院短期大学紀要24・25号 (1995) 99-108